


谷川俊太郎『朝のリレー』表現技法や「交替で地球を守る」の意味

谷川俊太郎『朝のリレー』テスト対策ポイント

谷川 俊太郎 (たにかわしゅんたろう)
日本を代表する詩人。名前は必ず漢字で書けるようにしましょう。



形式：口語自由詩 (2連構成)
現代の話し言葉で、リズムに決まりがない自由な形式です。


寝返りをうつ
夢



ニューヨーク カムチャッカ

「対比」による朝と夜の描き分け
離れた都市を並べ、眠っている国(夜)と起きている国(朝)を対比しています。


バスを待つ 朝陽にウインクする



メキシコ ローマ


「隠喩(暗喩)」：朝をリレーする
「~のようだ」を使わず、朝が次々来る様子をリレーに例えています。

「交替で地球を守る」の意味




地球上では常に誰かが目覚めて活動している、という事実を指します。

第1連は「情景」
前半で事実を描き、



第2連は「メッセージ」
後半で作者の考えを述べる構成です。



基本情報と詩の形式

作者	たにかわしゅんたろう 詩人の谷川俊太郎
詩の形式	こうごじゅうし 口語自由詩
詩の構成	2つの連 (2連)
使われている表現技法	対比・隠喩 (暗喩) など



作者の谷川俊太郎さんについて

作者の谷川俊太郎さん（1931年～2024年）は、日本を代表する国民的詩人だよ。

教科書に載っている詩の多くを手がけているとても有名な方で、2024年にご逝去（亡くなること）されたことで、改めてその素晴らしい作品たちが注目されているんだ。テストでも作者名はよく聞かれるので、必ず漢字で書けるようにしておこう！

詩の形式と構成

「朝のリレー」の形式は、「**口語自由詩**」だよ。

今の日本で使われている話し言葉（口語）で書かれていて、五・七・五のような文字数の決まりがない（自由詩）からだね。

		口語	文語
		現代の話しことば	昔の書きことば
自由詩 字数にきまりがない		口語自由詩 (口語 + 自由詩)	文語自由詩 (文語 + 自由詩)
定型詩 字数にきまりがある		口語定型詩 (口語 + 定型詩)	文語定型詩 (文語 + 定型詩)

詩の形式の見分け表

また、詩を大きなまとまりで分けたものを「連」というけれど、「朝のリレー」は1行目から10行目までの「第1連」と、「ぼくらは朝を～」から始まる11行目から17行目までの「第2連」の、2つの連（2連）からできているよ。



表現技法と工夫について

この詩には、言葉の印象を強くしたり、読んだ人に余韻を残したりするための表現上の工夫が使われているよ。テストによく出るのでしっかりチェックしよう。

対比の表現

第1連の1行目から8行目に注目してみてね。

「カムチャッカの若者」に対して「メキシコの娘」、「ニューヨークの少女」に対して「ローマの少年」というように、離れた場所同士の言葉が並べられているね。

さらに詳しく見ると、カムチャッカとニューヨークは「眠っている（夜）」、メキシコとローマは「目覚めている（朝）」という、夜と朝の対比（反対の言葉の並び）になっているんだよ！

隠喩（暗喩）

いんゆ あんゆ
隠喩（暗喩）とは

「~のようだ」「~みたいだ」という言葉を使わずに、別のものに例える表現技法のこと。

詩のタイトルにもなっている「朝をリレーする」という表現は隠喩だよ。

地球は丸くて回転（じてん自転）しているから、国によって朝が来るタイミングが違うよね。その「順番に朝がやってくること」を、バトンを渡していくスポーツの「リレー」に例えているんだ。

詩の構成と内容の読み解き

第1連は「地球上の具体的な情景（事実）」を描いていて、第2連はそこから導き出される「作者の考えやメッセージ」が語られているよ。構成の違いを意識しながら読み解いていこう。



第1連：いつもどこかで朝がはじまっている（具体的な情景）

第1連では、地球上の4つの都市に住む若者たちの様子が描かれているよ。

テストでは、「どの都市が朝（または夜）か？」という問題がよく出るので、詩の言葉から見分ける練習をしておこう。

- カムチャッカ：きりんの夢を見ているから「夜」
- メキシコ：朝もやの中でバスを待っているから「朝」
- ニューヨーク：寝返りをうつから「夜」
- ローマ：朝陽にウインクするから「朝」

この第1連で作者が一番伝えたいことは、9行目と10行目に書かれている「この地球ではいつもどこかで朝がはじまっている」という事実なんだ。

第2連：交替で地球を守る（作者のメッセージ）

第2連では、その「順番に朝がやってくること」を「交替で地球を守る」と表現しているよ。

これは、「地球上では、かならずどこかの国の人が目覚めていて、誰かが活動している」ということを意味しているんだ。

そして最後に、「目覚まし時計のベル」の音が聞こえてくるね。

この詩では、「それ（ベルの音）」は、ただ起きるための音ではなく、「あなたの送った朝を誰かがしっかりと受け止めた証拠」だと表現されているよ。

自分が眠りにつくとき、地球のどこかで鳴る目覚まし時計の音が「朝のバトン」を受け取った合図なんだ。とても素敵な考え方だね。



言葉の意味

詩の中に出てくる言葉の読み方や意味を確認しておこう。

言葉（読み）	意味
カムチャッカ	ロシアの東の端っこにある細長い半島。 寒くて雪がたくさん降る地域。
メキシコ	北アメリカ大陸の南にある国
朝もや	朝、地面付近にできるもやもやした霧 <small>きり</small> のこと
ニューヨーク	アメリカの東海岸にある、大きな都市
ローマ	イタリアの首都
朝陽	朝、東の空から昇ってくる太陽のこと
けいど 経度	地球上の位置を表すために、縦（南北）に引かれた線のこと。経度が違うと「時差」が生まれるよ。
ちゅうとう 柱頭	建物の柱の一番上の部分のこと。ローマの古い神殿 <small>しんでん</small> などをイメージするとわかりやすいね。
こうたい 交替	役割などを、代わり合ってすること。入れかわること。
いわば	例えるなら。言い換えるならば。
ひととき	少しの時間。しばらくの間。

作者の思い・伝えたいこと（主題）

この詩の主題しゅだい（テーマ）は、「時差によって朝が受けわたされるように、世界中の人々は見えないところでつながっているということ」だよ。

「ぼくらは朝をリレーするのだ」の「ぼくら」とは、この詩を読んでいる私たちも含めた、世界中の人々（とくに若者たち）のことだね。



私たちが夜眠っていても、地球は決して一人ぼっちで真っ暗になるわけじゃない。見知らぬ遠くの国の人たちが朝を受け取って、活動してくれている。そうやって、言葉も文化も違う世界中の人たちが「朝というバトン」をつなぐことで、大きな地球の命のリレーが続いているんだという、作者の温かいメッセージが込められているんだ。

テスト対策ポイントまとめ（直前チェック用）

最後に、テスト直前の最終チェック用にポイントを絞ってまとめるよ。

- 作者：たにかわしゅんたろう谷川俊太郎（漢字で書けるように！）
- 形式：「口語自由詩」（2連構成）
- 表現技法：「対比」「隠喩（暗喩）」など。
- 都市の対比：カムチャッカ・ニューヨークは「夜」、メキシコ・ローマは「朝」。
- 「それ」が指すもの：「目覚まし時計のベル」。朝のバトンを受け取った証拠。
- 交替で地球を守る意味：地球上では、かならずどこかの国の人が目覚めて活動しているということ。
- 主題（テーマ）：「時差によって朝が受けわたされるように、世界中の人々は見えないところでつながっているということ」。

